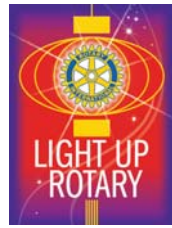




2014～15 年度
国際ロータリー会長

ゲイリー C. K. ホアン

Weekly Report Niigata



ロータリーに輝きを

2014～15 年度 国際ロータリーのテーマ



2014～15 年度
新潟ロータリークラブ会長

高橋 秀樹

新潟 RC 5 月第 3 例会 (2015.5.26) No.3088

(1) ロータリーソング「我らの生業」斉唱

(2) 高橋 秀樹会長挨拶

私が大学で教鞭をとっている専門分野は古代ギリシア史です。ギリシアという現代では財政問題で話題になることが多く、ネガティブな印象が強いと思いますが、今から 2500 年ほど前はヨーロッパで最先端の文明国でした。当時ギリシアで生み出された文物は文明的であることの指標としてヨーロッパで受け継がれ、現代世界にも計り知れない影響を与えています。一例を挙げれば、民主政や民主主義という考え方は、今や世界のほとんどの国で守るべき理想とされていますが、これは古代ギリシアで生まれたデモクラティア、即ち古代民主政に起源があります。このような古代ギリシアの歴史の中から、一人の人物を紹介して、本日の会長挨拶にしたいと思います。

古代のギリシアは、食糧の生産性という点では貧しい土地柄で、いくつもの都市国家に分かれて争っているのが通常の状態でした。他方、東の方では肥沃で豊かな土地を支配して大国となったペルシア帝国が栄えており、ギリシアを征服しようとして二度もギリシアに大遠征を行いました。この時ばかりはギリシア人は一丸となって外敵にあたり、何とか国土防衛に成功します。この時活躍したギリシアの英雄としては、スパルタのレオニダス、アテネのミルティアデス、テミстокレスなどが有名です。しかし、実はこれらの英雄たち以上にギリシア全体から信望を集め、讃えられたのが、アテネのアリスティデス(紀元前 530 年頃～468 年)という人物でした。

彼は、アテネで民主政が樹立された改革に関わって政治家として活躍しますが、その活動で最も重視したのが正しいことを貫くということで、それが非常に徹底していたので、周囲から「正しい人」という呼び名で語られるようになりました。幾つものエピソードが伝わっていますが、その中から三つ取り上げて紹介したいと思います。

第一次ペルシア戦争の折、アテネではそれまでの習慣により 10 人の将軍が選ばれ、この 10 人が毎日交代して代わる代わる全体の指揮をとる決まりでした。当時アリスティデスもその一人でしたが、彼は自分の担当が廻ってきた時に、自らの指揮権を同僚だったミルティアデスに譲り、「思慮が優れた人に服従することは恥ではなくて高貴で国のためになることだ」と唱えました。政治家としての面子が関わることでもあるので、当時としては考えられない行動でしたが、彼の振舞いに感銘を受けた他の将軍たちもこれに倣い、結果として、戦術に秀でたミルテ

シアデスが存分にその腕を振り、ペルシアとの最初の戦い(マラ톤の戦い:紀元前 490 年)に勝利することになったのです。また、第二次ペルシア戦争の時に、プラタイアイという場所でギリシア連合軍が陣容を整えていた時のことです(紀元前 479 年)。ギリシアでも最も強いと言われていたスパルタの王が連合軍司令官となりました。彼は、ギリシアの国々のそれぞれの軍隊に戦列の中での持ち場を割り当てました。右翼は、戦列の中で最も激戦になることが予想され、それだけに最も名誉ある位置とされていましたが、ここをスパルタ兵の持ち場とし、それに次いで名誉ある位置とされる左翼をアテネ兵に割り当てました。すると、テゲアという国の人々がこれを不満として、左翼を要求すると共に、先祖の武勲を大いに誇りました。名誉ある持ち場を奪われるかと思ったアテネ人たちは大いに怒ったのですが、アリスティデスは次のように発言したとのことです。「テゲアの人々に対して自分たちの生まれがいいことや勇気があることを論議するのは差し迫った情勢が許さない。スパルタの諸君、我々は諸君及び他のギリシア人に対してこう主張する。戦列における位置は勇気を奪いもしなければ与えもしない。諸君が我々にどんな位置を指定するにせよ、我々は今までに勝利を得た数々の戦闘を辱めないためそれを整然と保持することに努めよう。我々がここへ来たのは同盟軍と争うためではなく敵と戦うためであり、先祖を誇るためではなく我々が全ギリシアにとって勇ましい人間だということを示すためである。この戦闘は各々の町、各々の指揮官、各々の兵士がどれ程全ギリシアの名誉となるか示すであろう。」人々はこの演説に感銘を受け、アテネ人が左翼を担当することに納得したそうです。そして、プラタイアイの戦いでは、見事ギリシア人連合軍がペルシア帝国軍に勝利したのでした。

最後にもう一つ彼のエピソードを紹介したいと思います。時間をすこし巻き戻して、第一次ペルシア戦争と第二次ペルシア戦争の間の時期に戻ります。当時アテネには、独裁者が生まれにくい、独特な制度がありました。陶片追放と呼ばれるものですが、市民たちは独裁者になりそうな危険人物の名前を陶器の破片に記して投票し、得票が多かった人物は 10 年間国外に追放される、という制度でした。しかしこの制度は、政治家たちがライバルを蹴落とすために悪用されることが多く、悪意ある宣伝活動などによって操作されることもある、危険性を孕んだものでした。さて紀元前 483 年にこの制度が実施された時、ある文盲の男が投票しようとして、文字を書いてもらおうと手近な人物に頼み、アリスティデスと書いてくれと言いました。頼ん

だ本人は知らなかったのですが、実はその頼まれた人物というのが偶々アリスティデスその人でした。アリスティデスは吃驚して、その男に尋ね、アリスティデスがあなたに何か悪いことをしたのかと言うと、その男が答えて言うには、「いいや、第一私はあの人を知りません。けれども何処へ行っても「正しい人」という名を聞くので厭になります。」

さて、みなさんだったら一体どうするでしょうか。アリスティデスはそれを聞くと、何も言わずに自分の名前を書き、その男に渡したそうです。

投票の結果としては、ライバルの悪意によって操作された票が動いたこともあり、アリスティデスの票が多数を占め、彼は10年間の国外追放を被ることになりました。ここでアリスティデスがとった行動が、これまた興味深いのですが、国を去るにあたり、彼は神に祈りを捧げ、人々がアリスティデスを思い出さなければなくなるような大きな災いがアテネを襲いませぬようにと祈ったとのこと。話はまだここで終わりません。わずか2年後の紀元前480年、ペルシア帝国が再びギリシアを襲い、第二次ペルシア戦争が起こりました。すると人々は急いで追放を取り消してアリスティデスを呼び戻しました。アリスティデスは第一線に戻って活躍し、必要な時には人々を教え諭したことは、さきほど紹介したエピソードの通りです。

さて、アリスティデスのような行動に共感を覚えるかどうかは、考え方によって人それぞれだと思いますので、ここでその是非を語ることはいたしません。しかしいずれにせよ日頃の行動を振り返る材料として貴重なものであることは確かだと思います。そして、彼のような人がいたからこそ、現代につながる社会理念が支えられ、発展できたのだと思われます。民主政や民主主義の理念は、現在においても我々の社会の根幹を成すものであります。ロータリーソングに「我等の生業」があり、我々はそれぞれの生業を足場として今ここにロータリアンとして集っております。その生業について、生まれや血筋がどうであれ、自らの意思と努力によって自ら選択し励むことができるのも、2500年以上前に生まれ、先人たちによって守られ育てられてきた社会の理念が根底にあるからであります。それぞれ自らの生業を思う存分発展させていくためにも、折に触れて日頃の振舞や行動指針について古人の範を鑑みたいものであります。

(3) 同好会報告（次ページに記載）

(4) ニコニコボックス紹介

・玉 知夫君 UXの新館がこのほど完成しました。一部報道の通りです。起きて欲しくない震災に備えた建物です。お祝い、ありがとうございます。

・塚田正幸君 今月13日から6泊7日で家内ともう一組の夫婦で中国の四川省成都市へ行ってきました。九寨溝や黄龍など風光明媚な高原、高山で自然を堪能して来ました。九寨溝の空港は標高3500mの高地（富士山に近い高さ）にあり、かなり寒かったです。他にも数か所巡りましたが帰国して日本がいかに清潔であるか、ホテルの食器がピカピカでトイレは超綺麗で街にゴミが無く、車が交通ルールを守って走っていると感心しました。でも中国もとても良かったです。

・長谷川 秀彦君 第28回サラリーマン川柳傑作300選決定しました。全国7位に新潟のお客様の作品が入賞しました。「ああ定年 これから 妻が 我が上司」・・・第一生命ホームページにも掲載されていますのでご高覧いただきニコニコして下さい。

・登坂 直美君 久しぶりに出席しました。今後も引き続きよろしくお願い致します。

・岡田 茂久君 結婚記念日に素敵なお花をいただきました。私も妻も忘れておりました。16年目の記念日でした。有難うございました。

・森井 満男君 結婚記念の素敵な花を頂きました。ありがとうございました。

(5) 卓話「人生を輝かす」

NP0 法人 コスモ夢舞台代表 佐藤 賢太郎氏



(6) 本日の出席率 69.79%

会員数98名（出席免除会員 7名）

出席者67名（出席免除会員2名を含む）

(2週間前メーク後 84.22%)

6月2日の例会予定

卓話「新潟おもしろ方言講座」

NP0 法人郷土のことわざネットワーク

理事 大田朋子 氏

新潟ロータリークラブホームページアドレス

<http://www.niigatarc.jp/>

料理研究会報告

料理研究会幹事 吉田和弘

5月22日(金)、第11回料理研究会が開催されました。旬にタケカンムリと書いて筍、メインは筍ごはんでありました。今年は桜前線が全速力で日本列島を駆け抜けたように、筍もあっというまにシーズンが終わってしまったようです。そんな「名残」の筍を使いまして、筍ごはんを作りました。学校のレシピは事前に鶏肉、油揚げ、筍を煮て味をつけ、ご飯が炊き上がったところに混ぜ込むスタイルですが、これは各家庭で差があるようで、採れたての姫皮だけを使うという作り方もあるそうです。そのほか、新ショウガを使った酢の物、鰯の生姜煮を手早く調理して、筍の味噌汁と一緒にいただきました。次回は6月末から7月上旬を計画しています。研究会初の麺類を検討しております。蛇足ながら、これから中国料理では「汁なし坦々麺」が流行するそうです。一度お試しください。



3品作りました



たきあがり



慎重に計量する小飯田さん



筍を刻む高橋さん